

## 平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅡB (SeminarⅡB)		授業コード	E002556
担当教員名	板倉 理友			
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	経済分析に興味を持っている人が望ましい。報告者になったものは必ずレポートを作成して発表すること。			
受講心得	① 毎回出席を取ります(毎回のゼミ出席を心がけてください)。 ② 毎回報告者を決めて、発表してもらいます(ゼミは発表・討論を通じて学ぶ場です)。 ③ 予習を必ずしてきてください(日頃から自分なりの問題意識を持ってください)。			
教科書	「地域マクロ経済の分析」(板倉理友著、現代図書)			
参考文献及び指定図書	必要な都度指示します。			
関連科目	マクロ経済学、地域経済学			

授業の目的	本ゼミナールでは、現在地域が置かれている経済状況を理解するために、まず基本となる経済の理論・フレームを勉強します。その上で地域に突きつけられている課題を解決するためにはどうすればよいのか、その方策はどんなものがあるのか等々を分析することによって、最終的にマクロから見た地域経済という実態を把握し、卒業論文を作成することを目的としています。ゼミナールⅡBでは、地域経済の実態と照らし合わせながら、経済学の講義を中心に進めていきます。ゼミナールⅡAと同様、現実の地域経済のデータを検証しながら、どのように経済分析を行えばよいのか、どのようにすればより正確に地域経済状況を把握できるのか等々を学んでいきます。
授業の概要	毎回、次週の報告者を決めます。決まった報告者は事前にレポートを作成し、発表してもらいます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：履修指導</b> オリエンテーションと履修指導を行います。	次回授業内容の予習・レポート
<b>第2週：景気動向指数による地域景気動向の把握及び問題点</b> 当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。	次回授業内容の予習・レポート及び復習
<b>第3週：景気動向指数による地域景気動向の把握及び問題点2</b> 当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。	次回授業内容の予習・レポート及び復習
<b>第4週：景気動向指数による地域景気動向の把握及び問題点3</b> 当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。	次回授業内容の予習・レポート及び復習
<b>第5週：景気動向指数による地域景気動向の把握及び問題点4</b> 当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。	次回授業内容の予習・レポート及び復習
<b>第6週：景気動向指数による地域景気動向の把握及び問題点5</b> 当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。	次回授業内容の予習・レポート及び復習
<b>第7週：景気動向指数による地域景気動向の把握及び問題点6</b> 当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。	次回授業内容の予習・レポート及び復習
<b>第8週：景気動向指数による地域景気動向の把握及び問題点7</b> 当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。	次回授業内容の予習・レポート及び復習
<b>第9週：景気動向指数による地域景気動向の把握及び問題点8</b>	

当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。		次回授業内容の予習・レポート及び復習
<b>第10週：システム・ダイナミックスの考え方</b> 当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。		次回授業内容の予習・レポート及び復習
<b>第11週：システム・ダイナミックスの考え方2</b> 当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。		次回授業内容の予習・レポート及び復習
<b>第12週：システム・ダイナミックスの考え方3</b> 当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。		次回授業内容の予習・レポート及び復習
<b>第13週：システム・ダイナミックスの考え方4</b> 当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。		次回授業内容の予習・レポート及び復習
<b>第14週：地域マクロ計量モデルの考え方</b> 当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。		次回授業内容の予習・レポート及び復習
<b>第15週：地域マクロ計量モデルの考え方2</b> 当該講義で取り上げるテキスト内容を報告者が発表するという形式で授業を進めていきます。		これまでの復習
<b>第16週：期末試験</b> 試験はありません。		
<b>授業の運営方法</b>	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
<b>備考</b>		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	①出身地域に対してある程度の経済的な説明ができる。
<b>【知識・理解】</b>	②大分県、宮崎県等の地域経済について理解できる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	③自発的に発表ができる。 ④コミュニケーションができる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	⑤大分県、宮崎県等の地域経済についての分析ができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			40点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			20点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		20点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	必ず自分の発表日の授業には、事前にレポートを作成して報告してください。
発表・その他(無形成果)	発表(報告)するときには、分かりやすく言うことができているかどうか、よくまとまっているかどうか等を採点します。